

東北大学史料館アーカイブズセミナー

アクセス・利活用へのアプローチ
再考:記録はだれのもの？

タウランガ図書館におけるtaonga tuku iho Maōriの保護とアクセスへの取り組み

主催: 東北大学史料館、JSPS科研JP23K00961

参加無料

要事前申込

同時通訳

日時

2.24^月

10:30~12:00 (JPT)



- 10:30 ご挨拶: 加藤 論(東北大学史料館教授・副館長)
白川 栄美(東北大学史料館協力研究員)
- 10:40 発表: タウランガ図書館ヘリテージ・リサーチ・チーム
Harley Couper (ヘリテージ・スペシャリスト)
Amie Rolleston (Mātanga Taonga tuku iho Māori)
- 11:40 質疑応答
- 12:00 終了

近年、アーカイブズの脱植民地化やコミュニティ主導型アーカイブズ構築など、包摂的で多様なアーカイブズを目指す動きが国際的に広がっています。そのような中で記録のアクセスと利活用を考える際、アーキビストとアーカイブズにおける「Cultural Awareness (異なる文化の認識)」は欠くことのできない要素であると言えます。

本セミナーでは、「Pae Koroki (オンライン・プラットフォーム)」に Maŋauranga Maōri を含めるにあたり、マオリの伝統・文化を尊重し、彼らの価値観や理念を反映したツール (例えば、情報アクセスに対する Pakeha*と Maōri 両方の視点を視覚化したフレームワーク "Kaitiakitanga Framework") を開発することに成功したタウランガ市図書館ヘリテージ・リサーチ・チームに maŋauranga taonga tuku iho Maōri の保護とアクセスへの取り組み事例についてご紹介いただきます。

お申し込みはこちら



申込締切 2月22日(土)

セミナーへの参加は無料ですが、事前登録が必要です